

## 中学校の部 最優秀賞

愛南町の災害体験談 第10話 伝えることの大切さ

「伝えることの大切さ」を読んで

一本松中学校 1年 ぬのやま ゆうか 布山 結栞

この体験談から、今を生きる私たちにぜひ読んでほしいという強い思いが伝わってきました。実際、私は、日常生活で、地震による大きな揺れを体験したことがありません。それでも、西日本豪雨の恐怖は覚えています。きっと、そのとき大きな被害を受け、生死の境を体験した人の中には、この事実を伝え、風化させることのないように、語り部をされている人もいらっしゃるのではないかと思います。そんな人々のお話を聞き、過去の災害を知り、今に生かすことは、とても重要なことだと私は思います。「伝えることの大切さ」を語った吉田さんは、「きっかけがなかったら、今の子どもたちは興味を持たない。」とおっしゃっていましたが、いかに私たちが日々の生活に危機感を持たずに暮らしているか指摘されたようで、恥ずかしくもあり、申し訳なくもあります。

私は、防災をテーマに自由研究をしたことがあります。ノートに、家で行う防災対策や通学路の危険個所をまとめたものです。現在も保管していて、ときどき見直して、変化したところを訂正し、確認しています。このような何気ない確認が、防災につながっていくのではないかと考えています。事実、見返すことによって、新たな気付きもあり、それが家族との対話や防災意識の向上、家族間の申し合わせ事項になっています。私が西日本豪雨をきっかけに防災に興味を持ち意識が高まったことを考えると、吉田さんがおっしゃったことは正しいと、改めて思いました。

今後、私は、南海トラフ巨大地震を経験するかもしれません。そのときは、どんな状況に置かれても必死で生き抜き、経験者として、次代を生きる人たちに、事実を語り、一人でも多くの方が命を守る行動ができるようなお手伝いできればと思っています。そのためには、吉田さんの体験をはじめとするさまざまな実話や専門書から、状況と対策の知識を学び、訓練によって体に行動能力をしみ込ませていくつもりです。そして、伝えられたことは、しっかりと受け止めた証として、必ず次の世代へ伝えたいと思います。それが私に与えられた大きな宿題だと思っています。